

年 組 名前:

問1

運行開始 55 周年を迎えた JR中央線の特急「あずさ」は、当時約 4 時間だった新宿ー松本間の運行時間を最速でどれくらい短縮されましたか。

「 時間 分」

問2

運行時間の大幅な短縮で、山梨県民には、どんな影響を及ぼしたと思いますか。書いてください。

.....

問3

55 周年を記念した事業を 3 つ挙げてください。

.....

あずさ55周年祝う



記念の「鉄印」、出発式も

JR中央線の特急「あずさ」号が運行を開始して55周年を迎えた12日、JR東日本は東京・新宿駅で、記念の出発式を行った。社員らで構成するJR東日本交響楽団の演奏の後、55年前の運行開始時刻の午前8時ちょうどにあずさ号が発車した。あずさ号の歴史などがデザインされている台紙の配布や駅弁の販売などの記念事業も行い、55周年を祝った。



【写真上】特急「あずさ」運行開始55周年記念出発式で、手を挙げて発車の合図を送る新宿駅の高島剛副駅長（東京・JR新宿駅）【写真左】記念台紙を配る駅員（JR甲府駅）



この後、JR東日本交響楽団のメンバーらがクリスマス

「写真上」特急「あずさ」運行開始55周年記念出発式で、手を挙げて発車の合図を送る新宿駅の高島剛副駅長（東京・JR新宿駅）【写真左】記念台紙を配る駅員（JR甲府駅）

森山英彦副駅長が「当時、新宿ー松本間を約4時間で運行していたが、現在は最速で2時間23分で松本までお客さまを運んでいる」と説明。「これからも特急あずさをよりよくお願いします」とあいさつした。



「あずさ55年の軌跡」をドシドシご覧いただけます。

このほか、中央線沿線の一部駅でスタンプラリーなどのイベントを開催し、記念品を発売している。あずさは1966年12月12日に新宿ー松本間で運行を開始した。

一方、JR甲府駅では、あずさ号の写真や、「御朱印」を模したオリジナルの「鉄印」をデザインした記念台紙を12日限定で、使用済みの切符を改札窓口で提示した人らに配った。制作に携わった駅員の一人、荒木裕一さん（27）は「これからもあずさを愛し続けてほしい」と話した。

森山英彦副駅長が「当時、新宿ー松本間を約4時間で運行していたが、現在は最速で2時間23分で松本までお客さまを運んでいる」と説明。「これからも特急あずさをよりよくお願いします」とあいさつした。

ソングなどを演奏。高島剛副駅長が手を挙げて合図し、あずさ号が発車した。

(2021年12月14日付 山梨日日新聞22面)